


製品安全データシート

Procleix Auto Detect 2

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	: Procleix Auto Detect 2			
使用対象	: BS0151, Procleix Auto Detect Reagents 301120, Procleix Ultrio ABD Auto Detect Reagents 301169, Procleix Ultrio Assay 301103, 301105.			
MSDS番号	: 0045P			
製品タイプ	: 液体。			
供給者/ 製造者	: Gen-Probe Incorporated 10210 Genetic Center Drive San Diego, CA 92121-4362			
緊急連絡用電話番号(受付時間)	: CHEMTREC International: +1 (703) 527-3887			
化学製品の推奨される用途	試験管診断			
使用制限あり	用途			
	産業カテゴリー	用途カテゴリー	用途サブカテゴリー	ファンクションカテゴリー
	一致するものはない。			

2. 危険有害性の要約

GHS分類	: 皮膚腐食性/刺激性 - 区分 1A 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 - 区分 1
GHSラベル要素	
注意喚起語	: 危険
危険有害性情報	: 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷。 重篤な眼の損傷。
注意書き	
防止	: 保護手袋を着用すること。保護眼鏡/保護面を着用すること。保護手袋/衣類を着用すること。取扱い後はよく洗うこと。
対応	: 直ちに医師に連絡すること。飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。皮膚(または毛)にかかった場合: 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと/取り除くこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。吸入した場合: 新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
保管	: 施錠して保管すること。
廃棄	: 内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。
シンボル	: 
分類されていない他の危険有害性	: データなし。
国情報	
日本 - 分類	: 腐食性物質。

3. 組成及び成分情報

- 物質/製剤 : 混合物
 化学名 : 該当せず。
 化学物質を特定する他の方法 : データなし。

成分名	%	CAS 番号	ENCS	ISHL
水酸化ナトリウム	5 - 10	1310-73-2	(1)-410	データなし。

提供者の現在の知識の範囲および該当する濃度では、本製品の補足的な成分の中には健康または環境に対して有害危険性であると分類されるためこのセクションで報告が義務づけられている成分は含まれていません。

職業性暴露限界がある場合、セクション8に記載されている。

記載の危険性物質は「Used In」(使用対象)セクションの各パーツ番号のものと同じですが、非危険性コンポーネントが異なるため、これらの製品の用途は交替できません。製品の用途についてはパッケージに同梱のシートを参照してください。

4. 応急措置

応急措置

- 目に入った場合** : コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。接触した場合、直ちに多量の水で20分以上洗眼する。直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に触れた場合** : 接触した場合、汚染された衣服および靴を脱ぎ、直ちに多量の水で皮膚を20分以上洗浄すること。直ちに医師の診断を受ける。
- 吸入した場合** : もし吸入したら、新鮮な空気のある場所に移動させる。呼吸が停止している場合、人工呼吸を行う。呼吸が困難な場合、酸素を供給する。直ちに医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合** : 嘔吐を誘発させないで下さい。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。直ちに医師の診断を受ける。
- 応急措置をする者の保護** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。
- 医師に対する特別注意事項** : 特定の治療法はない。症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

健康への影響と症状の詳細については、セクション11を参照。

5. 火災時の措置

消火剤

- 適切** : 火災に応じた消火剤を使用する。
- 不適切** : 認知済みのものは無し。

危険有害な分解生成物 : 明確なデータは無い。

消防士用の特殊保護具

- : 消防士は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェース部分を備えた自給式の呼吸器具(SCBA)を装着しなければならない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。蒸気やミストを呼吸しない。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。

環境に対する注意事項 : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。

封じ込めおよび洗浄に関する方法および材料

- 漏出** : 危険性がなければ、漏れを止める。下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。漏出物を廃水処理施設に洗い流すか、または以下の指示に従う。本製品がこぼれたら、砂、土、パーミキュライト、珪藻土等の非可燃性の吸収剤でこぼれを封じ込めた後、容器に集め、現地法に基づき廃棄する(セクション13を参照)。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。漏出物を吸い取った吸収剤は、漏出した製品と同じ危険性を引き起こすことがある。注意: 接触時の情報はセクション1を、廃棄処理はセクション13を参照して下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 安全に取扱うための注意事項** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。蒸気やミストを呼吸しない。摂取してはならない。当物質の通常の取り扱い中に呼吸器官への有害危険性が存在する場合は、必ず適切な換気装置を使用するか、あるいは適切な呼吸用保護具を着用する。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。酸類に近づけないこと。容器が空でも製品の残留物が残存して有害危険性がある。容器を再利用してはならない。
- 安全に保管するための注意事項** : 現地法に従って保管する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および食物から離して保管する。酸類に近づけない。使用前直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

成分名	暴露限界値
水酸化ナトリウム	JSOH (日本、5/2006)。 OEL-C: 2 mg/m ³

- 推奨される測定方法** : 当製品が暴露限界を有する物質を含む場合、個人、作業場の空気、あるいは生物学的なモニタリングを行い、換気等の管理手段の有効性、および呼吸器保護具を使用する必要性、あるいはそのいずれかを明らかにする必要がある。
- 適切な技術的管理** : ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気またはミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質への暴露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。
- 環境暴露管理** : 換気装置および作業工程装置からの排出物を検査し、環境保護の法律規制の要件に適合していることを確認しなければならない。場合によっては排出物を許容レベル以下に下げするために煙霧清浄機やフィルター、あるいは行程装置の技術的改良が必要になることもある。
- 個人の保護措置**
- 衛生措置** : 化学製品の取り扱い後は、食事、喫煙およびトイレの使用前および作業時間の最後に、必ず手、前腕および顔を洗う。汚染された可能性のある衣類を取り除く際には、適切な技術を用いる。汚染された衣類は、再着用の前に洗濯する。作業場所の近くに洗眼スタンドと安全シャワーが設置されていることを確認する。
- 呼吸器の保護具** : リスク評価により必要性が示されたときは、承認された基準に合格した、身体に良く合った空気清浄機能付きまたは給気式の呼吸保護具を使用する。使用する呼吸保護具は、既知もしくは予測される暴露量、製品の危険有害性、選択される呼吸保護具の安全作動限度に基づいて選択しなければならない。
- 手の保護具** : リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。
- 目の保護具** : リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。
- 皮膚の保護** : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理的状態** : 液体。[透明。]
- 色** : 無色。
- 臭い** : 無臭。
- pH** : 14
- 引火性(固体、気体)** : 次の物質および条件の存在下で引火性ではない: 裸火、火花、および放電、熱、ショックおよび機械的衝撃、酸化性物質、還元性物質、可燃性物質、有機物質、金属、酸、アルカリおよび湿気。
- VOC** : データなし。

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	: 製品は安定である。通常の保管および使用条件の下では、有害な重合は起こらない。
避けるべき条件	: 明確なデータは無い。
混触危険物質	: 次の物質と非常に反応性あるいは危険配合製: 酸。
危険有害な分解生成物	: 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

最も重要な健康への影響

起こりうる急性毒性

吸入した場合	: 呼吸器系に対して非常に刺激性のあるガスや蒸気、粉塵を放出することがある。
飲み込んだ場合	: 口、喉および胃に火傷を起こすことがある。
皮膚に触れた場合	: 重度のやけどを引き起こす。
目に入った場合	: 重篤な眼の損傷。

健康への慢性効果の可能性

概要	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
吸入した場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
飲み込んだ場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
皮膚に触れた場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
目に入った場合	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
発がん性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
変異原性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
催奇形性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
発育への影響	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
生殖能力に対する影響	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

物理的・化学的および毒物学的な特性に関連する症状

吸入した場合	: 明確なデータは無い。
飲み込んだ場合	: 有害症状には以下の症状が含まれる: 胃痛
皮膚に触れた場合	: 有害症状には以下の症状が含まれる: 痛み及び刺激 発赤 水ぶくれになることがある
目に入った場合	: 有害症状には以下の症状が含まれる: 痛み 流涙 発赤

その他の情報

: データなし。

12. 環境影響情報

生態毒性	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。
移動性	: データなし。
その他の悪影響	: 重大な作用や危険有害性は知られていない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法	: 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。
------	--

14. 輸送上の注意

国際運輸規定

適用法令	国連番号	輸送固有名	クラス	PG*	ラベル	追加情報
IMDGクラス	UN1824	水酸化ナトリウム溶液	8	II		-
IATA クラス	UN1824	水酸化ナトリウム溶液	8	II		-

PG* : パッキンググループ

15. 適用法令

日本の管理法令 : 規定なし。
 生分解性 : データなし。
 魚に蓄積した化学物質の濃度 : データなし。

化審法化学物質(ENCS) : 第3節参照
 安衛法化学物質(ISHL) : 第3節参照
 その他の規定 : データなし。

16. その他の情報

ヒストリ

発行日 : 05/15/2010
 前作成日 : 03/15/2009
 バージョン : 3

参照 : Standard : JIS Z7250 (日本)

注意事項

危険有害性の評価は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。すべての化学製品には、未知の危険有害性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。